

# 全医労保育所ニュース

## 国立病院機構として 院内保育所の実情を把握する 部署を設置せよ

全医労は第42回保育所会議の前日9月6日に機構本部要請を行いました。日本医労連山田委員長を先頭に地方協代表・本部12人が参加し、看護師等の確保対策と院内保育所の充実、処遇の改善等を訴えました。

### 職員確保に 重要な役割を持つ

院内保育所として  
機構本部要請は、日本医労連・山田中央執行委員長、中村中央執行委員（全日赤書記長）

と全医労・瀬谷副委員長、同・中丸副委員長を先頭に、地方協代表を含む12人が参加しました。

機構側は、高野職員厚生部職員課労務専門



9月6日医労連山田委員長を先頭に機構本部要請

職以下8人が対応。一括回答を受けた後、参加者から医師・看護師等の確保対策との院内保育所の充実、処遇の改善等を訴えました。

機構は「第二共済の委託事業であり、機構に決定権限はない。共済組合法にのっとり、福利厚生の一環として設置・運営している。労働条件については雇用主であるピジョンが判断することだ」と回答。昨年同様、機械的な回答に対し全医労は「院内保育所の設置は厚労省5局長通知でもうたわれており、病院職員が働き続けるために欠かせない。縦割り運営、我々の要求をねつけるような関係では、病院全体の運営に支障をきたす」と述べた上で、各地方協代表から諸々訴えました。

### 安心して保育したい 働き続けたい

昨年の委託更新決定に関わり「保護者から不安な声が多かった。日常保育をしている私たちも大丈夫と答えながら不安だった」「新たな業者委託や雇用不安

は子どもも保護者も落ち着かなくなる。いつも不安定な状態だ」「歴史ある保育所で培った保育が継続されるのか。保育の質と雇用の問題はずつとつきまとう」「病院直営で設置・運営を改めて要求する」と訴えました。

### いのちを預かる仕事 なのに、この低賃金 では生活できない

「子どもの命を守り、国家資格を持ち働いているのに私たち保育士の賃金は安すぎる。7年働き、手取り13万ない」「機構の保育士は福祉職に位置付けられている。私たちの仕事に見合った評価をすべきだ」「退職金制度もない。何らかの形ができないか」「ピジョンと団交もやっているが、委託契約料が決まっただけで安い。低賃金のため募集しても保育士が集まらない」と追及しましたが、機構は「処遇面



保育所職員の切実な声を聞いて下さい

では直接回答はできない。話は共済本部へも伝える」という回答にとどまりました。

### 機構が責任をもって 一部署をつくれ

「病院の安定した職員の確保のため、院内保育所の運営について責任を持つことは当たり前前のことであり、常に状況を把握する必要がある。機構の中に院内保育所の実情を把握する部署を作れ」と迫りました。機構は「重要なことと認識はしているが、一部署を作ることは現段階では考えていない。委託者である第二共済が情報をつかむべき」とかたくなな態度に終始しました。

**保育所運営にあたり現場の声を尊重せよ**

「保育委員会で決定した園児数の定員数について、管理診療会議で反古にする」「24時間保育導入を病院側が一方的に決定」「延長保育が朝の6時から22時まで行われている」

「365日開園している

保育所がある」などの実態をあげ、保育所運営にあたっては現場の声をきちんと聞き、「子どもにとつてどうなのか」という視点で慎重に検討せよと訴えました。さらに保育所は病院職員の不足や厳しい働き方の犠牲となつて



近畿地方協代表・久保さん（左手前）訴える。翌日の会議では要請報告をして下さいました。

えよ」「避難訓練は保育所独自に行っているが、病院と一緒に行つておらず、いざという時の訓練になつていない」「大事な職員の子どもを預かっている

の把握できていない状況では困る。徹底せよ」と迫り、機構は「昨年合同の避難訓練、マニュアル作りを各病院に通知したが、その後の状況や連絡体制などについて確認をした」と回答しました。

さらに福島第一原発の放射能汚染の問題については現在進行形であり、ハード面では機構が対応することになっている。保育所の園庭・園舎の敷地もその対象となるはずだ。子どもたちの安全を第一に考え、機構として数値を確認し、必要な除

染・対応を図れと改めて要請しました。機構は「状況を見て対応する」と回答しました。最後に、山田委員長から「我々と機構の認識は以下の点で認識を一致させたと確認したい。それは『院内保育所は病院職員の確保に重要な役割を果たしている』『職員が期待する保育の質を継続させるためにも保育所職員の処遇改善は重要な課題である』『保育委員会の民主的な運営が行われ、保護者と保育所、病院

の三者から意見がきちんと聞ける場となるよう第二共済に要請する』『保護者の安心と園児の安全のために院内保育所も災害対策の一部署として対応する』の4点だ。その他、要望についてはきちんと受け止め、担当部署ができることを再度要請する」とまとめ、要請を終了しました。参加者は要請後、機構本部前で記念撮影し「訴え続けることが大事だ。来年もがんばろう」と誓い合いました。

**災害時の対応を**

「災害時に病院の警報が保育所とは運動していない。院内放送などの情報が入らないため、緊急連絡マニュアルを作り保育園にも伝えよ」

**柔軟な人員配置でのびのびと保育を**

園舎を新築しても自園給食が家庭の台所と同じ広さで行われている実態や津波や地震の心配がある園舎について訴え、園舎新築・改修にあたり長期貸付金の対象（申請）としている病院があるのか、活用の仕方についても伝えよと訴えました。

**園舎の整備を図れ 原発放射能汚染の対応を図れ**

「不十分な対応で悔しい。しかし継続は力なり。訴え続けることで少しずつでも山を崩そう。来年もがんばろう！」要請後、機構本部前で記念撮影し、誓い合いました。



「不十分な対応で悔しい。しかし継続は力なり。訴え続けることで少しずつでも山を崩そう。来年もがんばろう！」要請後、機構本部前で記念撮影し、誓い合いました。